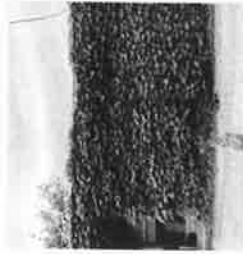


容疑者、凶器を多数所持

大分市坂ノ市のくまがい法律事務所内で熊谷洋佑弁護士が殺害された事件で、逮捕された岡山一夫容疑者（44）が、逮捕当時、刃渡り10 cmのナイフ、重さ3 kgのトンカチ、長さ3 mのワイヤー入りロープなどをバッグに入れて所持していたことが捜査関係者への取材で分かった。



事件のあったくまがい法律事務所

計画的犯行か

熊谷弁護士殺害事件

捜査関係者によると、岡山容疑者は、犯行当日午後1時45分頃に熊谷法律事務所を訪れ、約15分間同事務所に滞在。この際にも、このバッグを携行していたと自供しているとのこと。警察は、当初より熊谷弁護士を殺害する目的で、岡山容疑者がくまがい法律事務所を訪れた可能性もあるとして、慎重に捜査を進めるとしている。

また、岡山容疑者がくまがい法律事務所を訪れる15分程前に、くまがい法律事務所を訪れた関係者がいるとのことであり、警察は、この関係者などか、捜査を進める模様である。

「弁護士は既に死んでいた」

熊谷弁護士殺害事件

容疑者いまだ容疑を否認

大分市坂ノ市のくまがい法律事務所内で、熊谷洋佑弁護士（当時39）が殺害された事件で、逮捕された岡山一夫容疑者（44）が、「自分がくまがい法律事務所を訪れた際、熊谷弁護士は既に死んでいた。」、「自分は犯人ではない。」などと述べ、容疑を否認していることが捜査関係者への取材で分かった。

岡山容疑者がくまがい法律事務所を訪れる約15分前、くまがい法律事務所の顧問先社長が同事務所を訪れており、同社長によると、事務所を出る際、熊谷弁護士は確かに生存していたとのこと。

捜査関係者によると、くまがい法律事務所の出入り口は一つしかなく、出入り口付近には防犯カメラが設置。人の出入りが常に防犯カメラで撮影されており、犯行当日、顧問先社長が事務所を出た後、岡山容疑者が事務所を訪れるまでの間、くまがい法律事務所に入りの出入りはなかったとのこと。

捜査の期間を終え、事件はこれから、裁判員裁判の場で争われることとなる。裁判でも岡山容疑者が否認を続けるか注目される。

法律事務所で弁護士死亡

裁判で敗れた逆恨みか

製造メーカー社長（44）を逮捕



殺害された熊谷洋佑弁護士

5日午後4時頃、大分市坂ノ市のくまがい法律事務所内で、同事務所の弁護士熊谷洋佑さん（39）が倒れているのが発見された。熊谷弁護士は病院に緊急搬送されたが、間もなく死亡が確認。遺体後頭部あたりで、現場に超硬質素材でできたカバリー硬質が付いたタブレットが落ちていたことから、警察は、犯人がタブレットを落として熊谷弁護士を殺害したとみて、捜査を開始。

凶器とみられるタブレットから、この日の午後2時頃にくまがい法律事務所を訪れていた製造メーカー社長岡山一夫（44）の指紋が検出されたことから、警察は、同人を殺人容疑で逮捕。

捜査によると、岡山容疑者の経営する有有限会社オカヤマは、同社が製造した、タブレットカバリーを巡り、熊谷弁護士の顧問先会社と裁判になり敗訴。1億円の損害賠償金の支払いを命じられていた。支那警察は、今回の犯行が裁判に敗れたことへの逆恨み、動機のあるとみられている。

なお、岡山容疑者は、容疑を否認している。

後頭部を一撃 致命傷に

犯行時間は約数秒

熊谷弁護士殺害事件

大分市坂ノ市のくまがい法律事務所内で同事務所の弁護士熊谷洋佑さん（当時39）が殺害された事件で、熊谷弁護士の死因が、後頭部を一度、極めて硬い捜査関係者への取材で分かっている。熊谷弁護士の事務所では、超硬質素材の「カッターノ」製のタブレットが付けられており、これが殺害に用いられた凶器である可能性が極めて高いとみられている。

また、同タブレットカバリーには、逮捕された岡山一夫容疑者（44）の指紋が付着しており、岡山容疑者の指紋の付き方が、

熊谷弁護士の殺害方法と合致するとのこと。その一方で、岡山容疑者は、逮捕されたときから一貫して容疑を否認しており、警察は、より一層、慎重に捜査を進めていくとの方針を出している。



「カッターノ」で作られたカバリーが付けたタブレット